

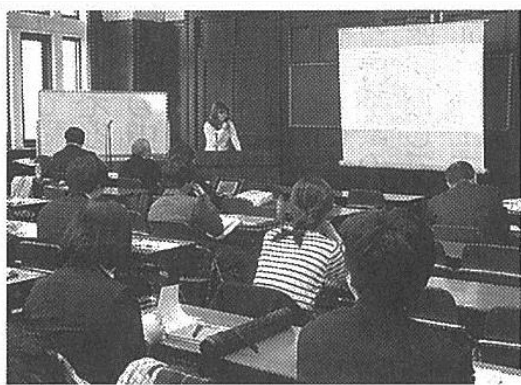
学生会議ら

6大学が研究成果発表

横浜市でまちづくりフォーラム

首都圏の六つの大学でつくる「横浜まちづくり学生会議」と、横浜市のまちづくり支援認定団体「有責任事業組合（LLP）まち

テラス」が主催する第3回フォーラムが5日、横浜市中区の開港記念会館で行われた。横浜国立大、東京都大、関東学院大、東海大、神奈川大、工学院大の建築系学科で学ぶ学生が参加



し、市民に研究成果を発表したⅡ写真。

フォーラムは街づくりを学生が自発的に考え、解決する力を養う機会を提供しようとして、LLPまちテラスとまちづくりを考える市民団体「横浜ネクスト50」が企画した。オリエンタルコサルタンツなどが協賛し、2年前から開催している。

会議では、主催者を代表しLLPまちテラスの高橋徹理事長が「異なる大学の学生が集まり横浜の街づくり、今後の街づくり全般のあり方を議論するところに特徴がある。今回は企画からフォーラムの実施まで学生主体で進める。この活動を通してリアルな現場を体験し、街づくりの問題発掘や課題解決力を身に付けて

もらいたい」とあいさつした。

続いて神奈川大の工学部建築学科4年生と大学院生（修士）、東京都大環境学部環境創生学科3年生と4年生、東海大工学部建築学科4年生、横浜国大理工学部建築都市・環境系学科2年生と3年生、工学院大大学院生（修士）が登壇し、「横浜市十日市場町における地域資源の抽出・発信の取り組み」「コワーキングスペースの施設タイプに着目した運営成果に関する研究」「海岸通りの再生提案」「横浜市関内地区の市街地実態とまちづくりの方向について」など、日ごろの研究成果を披露。同会議を継続・発展させるためのパネルディスカッションも行われた。